「産業協力情報授業」の効果と課題

― 教科『情報』充実のために ―

東京都立板橋有徳高等学校　教諭　黒田　英子
h-kuroda@u01.gate01.com

キーワード：高等学校，産業協力情報授業，Ｗｅｂコンテンツ制作，著作権

１．はじめに

高等学校では、平成１５年度より教科「情報」の授業が実施され、普通教科「情報」においては、情報Ａ、情報Ｂ、情報Ｃの３つの科目の中から、いずれか１科目を必ず履修することとなっている。学校現場では、学校の教育目標や実態、生徒の現状を踏まえ、それぞれの学校ごとに教育課程を編成し、情報教育の目標である「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」を生徒に身につけさせるため、前述のいずれか１科目を設置し、様々な工夫を凝らした授業が展開されている。

現在、勤務している東京都立板橋有徳高等学校は、平成１９年に開校したばかりの新設校である。本校では「情報Ａ」の授業を通して、上記の目標を達成するように教育課程が編成されている。開校とともに現任校へ異動したが、生徒の学力差も大きく、コンピュータ室の整備も遅れ、日々の授業が試行錯誤の中、東京都教育委員会より「産業協力情報授業」について紹介を受けて、授業を実践することとなった。

本報告では、平成１９年度に実施したこの実践を振り返り、「産業協力情報授業」の効果と課題について述べたい。

２．授業の概要

（１）テーマ

生徒が公開するＷｅｂコンテンツの作成技法と著作権処理

（２）協力団体

学校インターネット教育推進協会（ＪＡＰＩＡＳ）

（３）授業のねらい

Ｗｅｂコンテンツを制作するにあたって、そのプロセスと基本的な技法、著作権および関連するルールやマナー等について、産業界で実際にコンテンツを制作している人々から、直接に指導を受けることで、日々進展する情報化社会に対する生徒の意識を深めるとともに、情報を発信するにあたっての必要な手続きと責任について理解させる。

（４）実施までの準備と打ち合わせ

授業の内容や教材、パソコン室の環境、生徒の状況などについて打ち合わせを２回実施した。このほかメールにて適宜連絡調整を行った。

（５）授業の内容

本校では、情報Ａの授業は時間割上５０分授業が２時間連続となっている。今回の授業実践では、この２時間連続の授業を全て担当していただいた。

１時間目は、「Ｗｅｂコンテンツ制作」がどのようなものなのか体験学習することを中心に行われた。

まず、演習プリントにて、生徒のＷｅｂ制作に関する状況を確認したのち、WWWについて説明を受けた。その後、あらかじめ用意されていたＨＴＭＬファイルの雛形から、文字や画像の変更、リンクの設定などを行った。

雛形のファイルや用意された画像ファイルが素晴らしいデザインであったので、生徒は非常に意欲的に取り組んでいた。また、制作現場で実際に担当されているプロデューサー、ディレクターなどの業務についての紹介もあり、生徒は興味深く聞いていたようである。

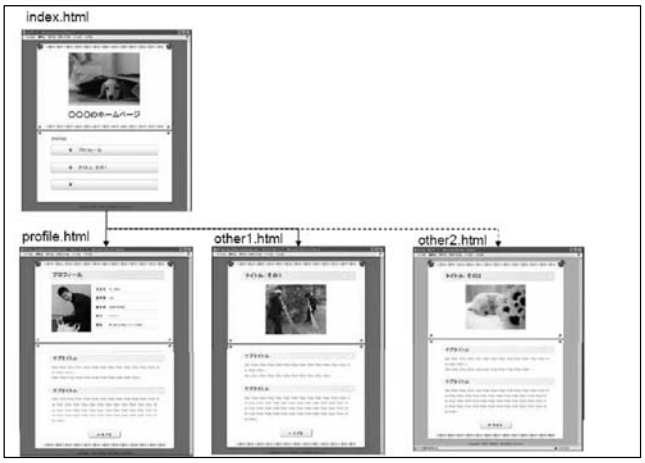

図１　授業で使用した雛形ファイル

２時間目は、テーマの決定からサイト公開までのＷｅｂサイト制作の流れについて、資料をもとに説明を受けた。制作するにあたっては、著作権への対応が必要であることを、実際に同年代の高校生が作成したＷｅｂサイトを見ながら、その処理について解説を受けた。

以上、２時間の授業で使用された教材は、学校インターネット教育推進協会のＷｅｂサイトで公開されている。

【参考】学校の「情報」授業への協力　　http://japias.jp/ja/class/index.html

３．産業協力授業の効果

生徒は、実際に業務としてＷｅｂコンテンツを制作している人々から、どのように制作していくのかを話してもらうことで、その過程をより身近に知ることができただけでなく、実習を通して制作技法を体験できた。また、今回は雛形のファイルを用意してもらったことで、ＨＴＭＬソースを少し変更しただけで、プロ並みに作品が仕上がるので、生徒は興味を持って意欲的に取り組んでいたように感じている。

授業実践を行ったクラスは、生徒の学力差も大きく、普段の授業においては、課題にもなかなか取り組めない生徒もいる状況であった。しかし、今回は教材が魅力的であったこともあり、そのような生徒も授業に積極的に参加していたようである。また、この授業実践をきっかけに、情報産業分野に興味を持ち、自分の進路について考えた生徒もいたようだ。総じて、クラス全体の学習意欲が高まったことは、今回の産業協力授業の効果といえる。

４．産業協力授業の課題

今回の産業協力授業は、１学年６クラスのうち１クラスを取り出しての授業実践であった。今後、継続的に産業協力授業が行える場合、他の５クラスにも同じ内容で実施してもらえるのかどうかというのは、まずに気になる点である。１クラスの授業実践の後、授業で説明された内容を私自身が他のクラスで話すことは可能だが、実際に業務を担当している社会人との交流がなくなってしまっては、この産業協力授業の魅力が半減してしまうように感じる。また、在籍する生徒には、同じようにこの授業を体験させたいという思いもある。同じ学校に通う生徒への機会均等ということからも、学校が希望すれば、他のクラスへも同様に授業を行ってもらえるとありがたい。

次に気になる点として、授業を実施する場合のタイミング（日程調整）がある。今回は、あらかじめ打ち合わせをして日程を決めて授業実践を行った。しかし、本校は新設校であったため不慣れなこともあり、学校行事等で、授業時間の短縮や時間割変更などがあった。そのため、産業協力授業を実施するまでの授業の進行を調整する必要が生じた。カリキュラムにある特定の内容について産業協力授業を実施してもらう場合、ちょうど良いタイミングでその前の授業が終わっていることが望ましいといえる。これは学校側の課題であるが、このことを踏まえると、定期考査終了後の最初の授業など、新しく学習する内容の導入として産業協力授業を実施してもらえると、より効果が高くなるように感じた。もちろん、これは学校ごとに状況が違うので一概に言えることではないが、いずれにしても実施する場合のタイミングを上手く設定しないと、授業進行の都合上、その時間だけが特別扱いとなってしまい、連続性に欠け、生徒の意識は単なる体験となってしまう。より効果を上げるためにも、実施団体と学校側で可能な限り、日程調整ができるとありがたい。

最後に、事前の打ち合わせでできることの限界についてあげたい。学校インターネット教育推進協会の方々は、何度も学校へ来ていただき、また当日も授業の進行に滞りがないよう、スタッフを増員してくださるなど、大変に丁寧な対応をしていただいた。打ち合わせも十分に行った上での授業実施であったが、導入部分で話していただいた内容が以前の授業と重複してしまったことや、例えば、実習で使用するファイル名に「_（アンダーバー）」があることで入力に不慣れな生徒が戸惑ってしまうなど、実際に授業を実施して気がつくことがいくつかあった。打ち合わせだけでは、気がつかないこともあるのだと、実感したしだいである。このようなことから、可能であれば、事前にリハーサルを行い、細部を調整しておくことが、より充実した授業につながるのではないかと考える。

５．まとめ

生徒にとって、実際に仕事をしている社会人から直接に話を聞けるというのは、何といっても貴重な経験である。とりわけ情報産業分野で実際に業務に携わっている人々から指導を受けるというのは、今回のような機会（産業協力授業）がなければ、なかなか実現しないことであろう。

我が国では、質の高い情報化人材育成が求められているが、そのためには、まず生徒が情報産業分野に興味・関心を持つようなきっかけを数多く用意することや、最先端の技術に触れる機会が必要なのではないだろうか。今回の授業実践で、生徒が積極的に授業へ参加する様子や、学習意欲が向上した状況を目の当たりにして、産業協力授業の効果は高いと実感している。

授業を実施する上での課題はいくつかあるが、産業協力授業は教科「情報」の授業を充実させるための一助であることは間違えない。次世代の人材育成のためにも、このような機会を継続して提供してもらえることを願うしだいである。